

メデー

黒地に日の丸の旗自立

旺んな労働祭の芝浦

「労働祭の会旗を撤廃せよせぬ
で先づ警官隊と衝突の幕が開かれた！
風は意気鋭き額に薫る

大阪のメデー (中ノ島公)

メデーの白日無忌として闘っているワキソンの音、しきり響く。梅田の無名地帯に、警官隊の隊列が整然と並ぶ。入口には早朝から監視隊の徒々木、地味な制服、日本旗、三田倉長以下、出陣隊百名の私服の警官隊が十五、二十重に隊列を築き立て、其中を突破しつ、午前十一時よりメデー参加者は續々として詰めかける。

先づ日本

車組組合等、撤廃せよとの希望であったが、撤廃を以ての命令ならば、いざ知らず、撤廃しない限りは、撤廃せぬと、押問答の結果、結果、撤廃本部より、芝浦の会場へ運ぶ途中、私服の警官に如何されて、撤廃を命ぜられた。撤廃本部で来たはずの警官隊の手により、一應其の旗だけは本部へ取り戻す事になった。これが労働者と警官の衝突の序幕であった。

メデー決議

萬國無産者の國際的主権たる此のメデーに際し吾人は左記三項の決定的實現を期す
一、八時間労働の即時實施
二、労働ロシヤ承認
三、生産額を確立千九百二十二年メデー東京全労働同盟

壇を圍る一萬

「あ、メデーは何の日」
祝歌起つて演説に入る

斯くて午後一時三十分吹き鳴らされた喇叭の音と共に演説會が開かれた。此時一段高く旗を掲げて、山に如く集まつた労働者の群は既に一萬人にも上つてゐる。カーキ色の軍服を着た道徳工務組合の高山次郎市長が開會の時を述べ、十餘團體の代表者は交々起つて、片づき天地に響くメデーの熱帯を揮つた。

大檢束開始

夜明けから百餘人
片づき端から自動車で

演説會では主賓者の色紙を贈るものは見當り次第に檢束して、片づき一昨年までに労働同盟會の秋山清外、橋本俊夫等六十餘名を檢束した。尚ほ本日本田主賓者と目されてゐる者の自宅に警官が押入して檢束した。約四十名に達した。何しろ少し様子の怪しいと見た参加者は連日、二日、三日に詰め込む三田倉と警官隊に押入してゐる。今朝からは百餘人以上に上つてゐるやう。尚ほ、労働者は一も二もなく、怒り、認め、檢束された。



坂川支部